

和地ひとみレポート No.103



平成 25 年東大和市議会第 4 回定例会：一般質問①『学校給食センター建設について』
給食センター建設は、将来への責任も感じ、精査を！！

■一般的な建設費用との乖離の理由は

…12月3日から開催されているH25年東大和市議会第4回定例会において、和地ひとみは以下の3つのテーマについて一般質問をおこないました。

① 学校給食センター建設について

- ・6月議会で建設予算の見積について精査する必要があることを確認し、5ヶ月が経過した。
- ⇒その後の対応は。
- ⇒建設計画の現状と今後の進め方、課題は。

② 東大和市の教育費について

- ・都内の他自治体と比較しての当市の状況は。
- ・現状を踏まえて、総行政費に対する教育費の比率を見直す可能性の有無について。
- ・教育費の不足により、目指すべき教育内容が実現できていない、もしくは遅れているものはあるか。

③ 『音楽の街、東大和』について

- ・いつから当市を『音楽の街』と位置づけたのか。また、その理由は。
- ・『音楽の街』としての今後の取組は。
- ・『音楽の街』と位置づけることによって、市全体として目指す姿や効果はあるか。

…現在、市で取り組んでいる事業の中でも、最大規模の「学校給食センター建設」。現在、市内にある2つの給食センターは築40年以上が経過し、老朽化や衛生管理方法、アレルギー対策などが問題となっています。市では2つの給食センターを統合し、新たに8000食調理可能な新センターを桜が丘市民広場の一部の敷地を利用しH29年度4月稼働を目標に事業を進めています。…市側の「学校給食センター建設計画などについて」の説明内に、建設費は25億3200万円を予定しているとの発表があったことを受け、近年、同じような規模の給食センター建設事業をおこなっている他自治体の様々な資料から、和地ひとみは建設費用を調査しました。当市の内容で試算してみると、その建設費用は全国の平均的な建設費用より総額で5億円以上(土地代を含まない)も高額な事が判明したため、そのことについて6月議会で和地ひとみは市側に建設費用の内容について確認しました。その際、費用についてはもっと精査する必要があると確認して5ヶ月が経過したため、この度の議会で再度、建設費用、現在の状況、今後の進め方などについて給食センター建設計画関連の質問をすることとしました。

■なぜ、疑問に思わないのか

…給食センターは公共の建築物のなかでも特殊性の高いものです。その一番の大きな部分は厨房設備。言い換えれば、機能、金額ともに厨房設備の占める割合が大きくなります。6月議会で予算の見積の詳細を確認した際の答弁では厨房設備費用は9億3000万円を見積もっているとのことでした。この規模の厨房設備の工事を請け負える会社は日本国内には5社程度とされています。ということは、その中の会社に依頼して様々な自治体で給食センターを建設しているということです。また、厨房設備の金額を比較する際は、調理する食数の1食あたりの厨房設備費を比較することが一般的ということなので、近年に建設計画がなされた全国の給食センターの厨房設備の金額を調べ、当市の厨房設備の予算額との乖離について確認しました。(下記表参照)

自治体名	調理可能食数	1食あたりの厨房設備費用
米子市	5000食	¥69,600
登米市	3600食	¥64,000
つくば市	8500食	¥60,588
東大和市	8000食	¥116,250

…当市の厨房設備費は、他の自治体と比較すると破格に高額で、1食あたりの費用では5万円程度高いものとなっています。その理由について担当者からは一番食数の規模が近いつくば市との比較を例に「つくば市の詳細はわからないながらも」と前置きをした上で当市との違いは「当市は自前で炊飯をするため(つくば市は違う)炊飯器の分約5,700万円」「食器の数が当市の方が多くことにより食器洗浄機1台分約4,000万円」「食器数の多さに比例し食器のコンテナ設備で約5,000万円」を具体的な相違点としてあげ、この差を1食あたりに換算すると約18,500円程度当市の方が高い理由が判明しているとのことでした。しかし、それでもなお、1食当たり5万円以上の差が埋まらないことに対しては、当市は厨房機器メーカーの定価を概算としているが、つくば市は現実的な数字になっていることによる差との答弁。では、実際には定価の何%程度で購入することが常識的な範疇なのかを確認したところ、その点については把握していないとのことでした。事業については最終的には市長の責任とはいえ、この価格差を見て、20億円という大規模事業の実際の担当者が、原因を突き止めたいと感じないのか。その点が和地ひとみは不思議でなりません。【裏面につづく】

■特殊性が高いからこそ

…現在、給食センター建設に関しては「基本設計」（建物の概要を決める）に着手しています。この業者に関しては8月に指名競争入札で決定しています。今回は、同規模の給食センター建設を経験したことのある企業9社を指名し実施。競争入札なので、一番低い価格を入れた企業が落札しています。先にも述べましたが、給食センター自体が特殊性の高い建築物であることに加え、当市は敷地が狭い、また、それに伴い2階にも厨房を設けなければならない、そして、住宅が多い街中に建設するという独自の特殊性も併せ持っています。入札には価格だけを競争して行う「競争入札」だけではなく「目的に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案をしてくださった業者を選定する」プロポーザル方式というものもあります。当市でもいくつかの事業についてはこの方式をとっています。なぜ、プロポーザル方式にできなかったのかを確認したところ「土地が狭い、街中である、総2階にしなければならない」という当市の給食センターの特殊性を考えると、自由度は少ないと考え、給食センター建設経験のある企業の指名入札が適当だと考えた」との答弁。指名入札にした理由はまさしくプロポーザル方式にしなければならないものとしか考えられません。

…この入札の結果は市のホームページでも公表されていますが、最高金額は1080万円、間は200万円台から700万円弱となって、最終的には130万円という低い金額の業者が落札。市に予想していた基本設計価格を確認したところ、1000万円とのこと。市の予想金額と実際の落札金額から考へる者は基本設計の次に行われる実施設計の契約も取りたいと考えていることは予想できます。これは、企業であれば当然考えることだと思いますが、今回の入札では「実施設計については随意契約（入札をせずに市が契約先を決める）を行う考えはない」との答弁でした。しかし、一般的には大きな問題がなければ、基本設計を行った会社がより詳細に決める段



階の実施設設計を行うことがスムーズな流れとなっています。そうだとしたら、なおさら、基本設計の段階でプロポーザル方式をとっておかなかったことにより「ベストな案による給食センターではなく、価格だけで決めてしまった」ということとなります。

…給食センターはその事業規模（金額）だけではなく、今後、40年、50年と使用するものです。さらに、周りの景観になじみ、環境にもやさしく、アレルギーや子供たちの食育にも配慮したもの、そして、災害時に炊き出しの基地となるものにしなければならないという、この事業の目的、使命を考えても、やはり、様々なアイデアの提案を受けるべきだと考えます。

■透明性の確保と説明責任

…当市においては、この規模の公共施設の建設は久しぶりです。担当している学校教育部は学校給食法には精通しているかもしれませんが、建設についての知識はないと思います。庁内では他部署にまたがり担当部署と協力してすすめているとのことですが、給食センターについては、建設に関する知識が必要になります。その詳細を市民が確認した際、価格や設備機能について「取引業者が言っているからです」というような回答は認められません。

…国土交通省では「コンストラクションマネジメント（CM）方式」を推奨しています。これは、発注者（＝東大和市）の補助者・代行者であるコンストラクションマネージャーが、技術的な中立性を保ちつつ、発注者の側に立って、設計・発注・施工の各段階において設計の検討や工事発注方式の検討、工程管理、品質管理、コスト管理など各種マネジメント業務の全部又は一部を行う方式です。CM方式について認知していたかを確認したところ、知らなかったとの答弁。多少の費用がかかっても、より良いものをより安く実現するために、他自治体でも導入しているCM方式導入も検討するように提言しました。そして、事業の透明性を高め、説明責任が果たせるように、この事業の重みを感じて推し進めてほしいとも伝えました。



市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。『学校』の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、新人東大和市議会議員として、日々、奮闘中。



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先

和地 ひとみ事務所

HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp

【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102